資料　No.3

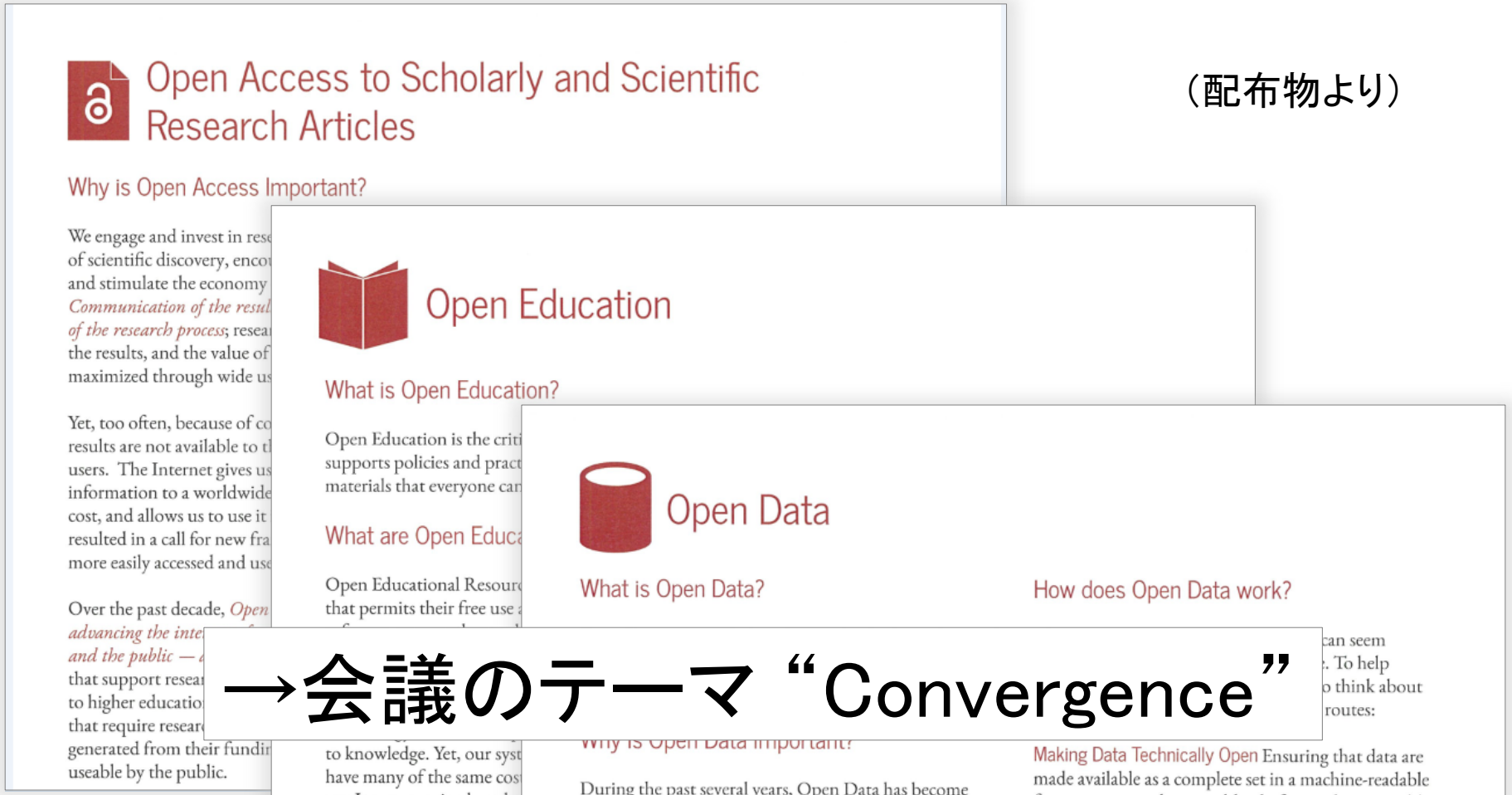
SPARC 2014 Open Access Meeting 報告

2014.3.3-4 米カンザスシティ
http://sparc.arl.org/events/OA14

鹿児島大学附属図書館　西薗 由依
国立情報学研究所　　後迫 久美

SPARCが取り組む課題

（配布物より）



Open Access to Scholarly and Scientific Research Articles

Why is Open Access Important?

We engage and invest in resc
of scientific discovery, encou
and stimulate the economy
Communication of the resul
of the research process; resea
the results, and the value of
maximized through wide us

Yet, too often, because of co
results are not available to t
users. The Internet gives us
information to a worldwide
cost, and allows us to use it
resulted in a call for new fra
more easily accessed and use

Over the past decade, *Open*
advancing the inte
and the public —
that support resea
to higher educatio
that require resear
generated from their fundir
useable by the public.

Open Education

What is Open Education?

Open Education is the criti
supports policies and pract
materials that everyone car

What are Open Educa

Open Educational Resour
that permits their free use

to knowledge. Yet, our syst
have many of the same cos
pre-Internet, print-based w
resources. *The cost of colleg*
many students to forgo req
alternatives have offered lit
on a subscription basis wit

Open Data

What is Open Data?

During the past several years, Open Data has become a field of urgent interest to researchers, scholars, and librarians. With the amount of scientific data doubling every year, issues surrounding the access, use, and curation of data sets are increasing in importance. The

How does Open Data work?

can seem
. To help
o think about
routes:

Making Data Technically Open Ensuring that data are made available as a complete set in a machine-readable format on an easily accessible platform is key to enabling Open Data.

Making Data Legally Open Ensuring that data are made available under legal terms that allow users to

→会議のテーマ“Convergence”

会議概要

- 前回の同会議（2012年）以後のOAの展開、今後の展望
- 北米を中心に約240名が参加
- 基調講演
- テーマ別4セッション
- ポスター発表
- ベンダー展示

プログラム

3/3

- Welcome and Meeting Keynote
- Session: Advocacy & Policy
- Session: Practical Implementation

3/4

- Session: Professional Development
- Session: Blue Sky & The Big Picture

基調講演

Dr. Philip E. Bourne “Where is Open Going?”

- Associate Director for Data Science at the National Institutes of Health (“NIH Data Czar”)
- 科学の民主化へ
  - さらなる精査を可能に(データ再現性の問題)
  - 新たな報奨の仕組みを(被引用数だけでなく)
  - 研究に関与する者すべてに同等の価値づけを
  - 部署のような人為的な壁の除去を
- 各機関はデジタル資産を扱う事業者へ
  - データセット、論文、ソフトウェア、実験ノート…
- 到達点に向かって研究ライフサイクル(ひいては学術コミュニケーション)をどのように完成させるか
  - 研究ライフサイクル内のエレメンツは、共通フレームワークでより結びつくように

Session: Advocacy & Policy

Donna K. Arnett “American Heart Association Open Science Policies”

- アメリカ心臓協会（AHA）のOpen Science方針
  - 論文のOA
    - 内部発表論文（AHA刊行誌）
      購読型の雑誌：6～12か月のエンバーゴ期間の後、OAへ
      OA誌（著者支払型）も刊行
    - 外部発表論文（AHA助成による研究成果）
      出版後1年以内にPMCで公開することを求める（2015～）
  - オープンデータ
    助成申請時にデータ共有計画を提出し、助成期間終了後1年以内にOAにすることを要求（2014.7～申請分から）
- 課題
  - ポリシーの浸透（オリエンテーション素材やFAQの作成）
  - 他機関におけるOpen Science対応について情報収集し、自機関における対応に柔軟に活かす

Session: Advocacy & Policy

José Cotta “A Digital Science Vision”

- 欧州委員会(EC)のデジタルサイエンス展望
  - より創造性・革新性・効率性・インパクト・信頼性の高いサイエンスへ
- 公的助成を受けた研究成果のインパクトを最適化させるためのポリシー。ヨーロッパにおけるポリシーは複雑。
- EC:ポリシー制定者／助成機関／キャパシティ・ビルダー
- 助成プログラム“Horizon 2020”(2012.7.12発表. 2014-2020実施)
  - 出版物:助成研究成果のOA義務化(Gold/Greenいずれか一方の推奨はしていない)
  - データ:試験的に取り組み
- 「OAは、それ自体がゴールなのではない。しかしOAは、デジタルサイエンスを通してよりよい研究や革新を促進させるための一つの重要な要素」

Session: Advocacy & Policy

Timothy Vollmer “The Exchange between Open Access and Open Educational Resources : What Can We Learn?”

- Public Policy Manager, Creative Commons
- コンテンツ：OA→OER
  - OAコンテンツがOERとして再利用されている：
    PLOSable, OA Media Importer Bot
- ポリシー：OER→OA
  - OERのポリシーで重要な4Rs：
    Reuse, Redistribute, Revise, Remix
  - OER作成に20億ドルの公的助成が行われ、すべてCC-BYで公開された例。
  - 一方、BOAI10ではライセンスや再利用について言及されているが、OAに関する公的なポリシーでそれらがカバーされているとは言えない。OAは、OERのポリシーを参考にするとよいのでは。
- テキスト&データマイニングの権利についても確立を進めていくべき。

Session: Advocacy & Policy

Nick Shockey “Two Years, Two Big Steps Forward”

- Director of Student Advocacy, SPARC
- 学生のアドボカシー活動“Right to Research Coalition (R2RC)”（2009年夏発表）:

  必要な研究成果に対するアクセスを求める
- OAをめぐる最近の動向
  - OAアドボカシーは新しい局面へ（州レベルのOAポリシー制定の動き）
  - OERの興隆
- 新しいシステムのデザインに学生を関与させよう。学生はOAを促進させるために行うあらゆることの触媒となる。
  - Open Access Button

Session: Practical Implementation

Richard Baraniuk “Open Access for educational publishing”

- Founder and Director, Connexions and OpenStax College, Rice University
- OER = 技術 + 知的財産
- Rice大学では、1999年にConnexionsを創設。1,400のオープンテキストのコレクションなどを提供。
- OER興隆の背景には米国の学生の経済的困窮がある。学生の負債総額は1兆ドルを超え、70%の学生がテキスト購入を控え、その結果78%の学生がパフォーマンスが悪化している。
- Rice大学におけるOERは次の段階へ（OER2.0）: OpenStax College
  - 目標：質が高く(ピアレビューを行っている)、操作が分かりやすく、無料でオープンなテキストを提供すること
  - 多くの利用やテキスト採用機関を得ている
  - 複数の慈善基金団体の支援を得て運営

（補足）OERが求められている背景

- 会議配布資料のOpen Educationについてのリーフレットでも言及あり
- 学生の経済的困窮

  65%の学生が価格の高さを理由にテキストを購入しないとの調査結果 [1]
- テキストの価格高騰

  2003年から2013年にかけて価格が82%上昇 [2]
- OERは必然的な需要

[1] U.S. PIRG Education Fund and the Student PIRGs. 2014. Fixing the Broken Textbook Market. http://www.studentpirgs.org/reports/sp/fixing-broken-textbook-market
[2] Bureau of Labor Statistics. 2014. Consumer Price Index Databases. http://www.bls.gov/cpi/data.htm

Session: Practical Implementation

Cameron Neylon “Managing a (Different) Data Deluge”

- Advocacy Director, Public Library of Science
- 増え続けるOA出版（及びそれに伴うAPC取引の増加）≒助成団体によるOAポリシーの遵守
- 機関はコンテンツではなくサービスを購入するように。
- OA出版の規模の拡大→[効率的な]管理が重要→各機関や出版社がばらばらのシステムを使うのではなく、識別子、システム、転送プロトコル等を利用し、共通インフラの構築、データの共有を行うべき。

Session: Professional Development

Connie Broughton “OER Professional Development”

- Director of eLearning and Open Education, Washington State Board for Community and Technical Colleges
- 学生の、学習成果の向上と、時間・お金の節約のため、デジタル技術の利用促進を。
- 技術系教員と協力し低コストの教材を作成。オープン/低コストのリソースが学生に悪影響をもたらすことはない。
- OERを普及させていくには？
  - 教員は、OERの使い方（見つけ方、評価、管理、利用、共有）や、質、著作権・ライセンスについての情報を求めている。
  - 教員は、OERイニシアティブへの関与を望んでおり、機関や部局からの支援を求めている。

Session: Professional Development

Jill Emery “Breaking Silos : Staffing for the Open Access Library”

- Collection Development Librarian, Portland State University
- OAとは：無料ではない（コストがかかる）／管理が必要／事業であり副業や特殊なものなどではない
- 新しいサービス企画が必要。従来の各業務で培ってきたスキルをOAに対応するために適用し、図書館全体で取り組んでいく。
  - 受入/ILL～ローカル目録へのOAコンテンツ追加、APC管理
  - 目録～ORCID取入れ, DOI付与
  - 収書～適切なOAの選別、OAに応じた割引交渉　　等
- セクショナリズムの打破が必要
- 既存のスキルの活用を
- 全員が関与した時、最高の状態のアドボカシーが起こる

Brett Bobley 人文系のオープンデータとOAについて

- Director, Office of Digital Humanities, National Endowment for the Humanities
- 人文学分野では、持続可能で、相互運用性があり、再利用可能なデータとはどのようなものであるべきか、について明確な概念はない
- 様々な分野でオープンデータのプロジェクトが存在。
  - パピルス古文書学、金石学、考古学、地理学、人類学、哲学、美術史学、、、
- 人文学分野の研究者は、専門分野内外でのデータ共有を望むようになってきている。

Session: Blue Sky & The Big Picture

Dave Ernst “Open Textbook Initiative”

- Executive Director, Open Academics Textbook Initiative
- 学生にとって、高価なテキストは負担。古い版を購入する、購入を遅らせる、購入しない、といった対応がなされている。単位取得を諦める学生もいる。
- オープンテキストは、コスト、情報へのアクセス、将来的な持続可能性の面から、機関・学生・教員すべてにとってメリットがあり進めていく必要がある。
- オープンテキストが存在するからといって教員がそれを採用するわけではない。費用対効果を分析。
- 普及のためには？
  - ファカルティ・ディベロップメント（テキスト代の高負担についての意識向上、“open”についての理解向上）
  - プラットフォーム提供
  - ピアレビューにより質への懸念を解消

（補足）COAPI

– Coalition of Open Access Policy Institutions –

SPARC2014の前日(3/2 12:00-17:00)に、COAPIの会議が開催された。アメリカの大学関係者を中心に、約30名が参加。

- COAPIの概要： 2011年に発足したSPARCの関連組織。OAポリシー実行のための戦略等を検討することがミッション。
- 活動内容： メールでの意見・情報交換が中心。年数回程度、SPARC等の会議に合わせ、対面でのディスカッションも実施。
- SPARC2014での会議の概要： OAポリシー実行の戦略や方法、COAPI Principlesの文面等を検討

  [会議で出された戦略の意見(例)]

  – OAの概念や最新の情報、OERの効果等について、関係者(教員、学生、他部署等)へ簡潔な啓蒙
  – 各大学の取り組みや情報の共有
  – 研究者がIRに登録しやすいシステムの整備(ORCID等)

所感

- オープンアクセスに関わる様々な活動が結集することの重要性
- アドボカシーは常に重要
- 問題の分析とその対策
- 持続可能性・相互運用性・効率性
- OERへの関心の高さ
- アクセスのみでなく、共有へ